

# 横幹〈知の統合〉シリーズ創刊

学習院大学 遠藤 薫

Gakushuin University Kaoru, ENDO

## 1 横幹〈知の統合〉シリーズ創刊

2016年4月10日、いよいよ、「横幹〈知の統合〉シリーズ」の第1弾、第2弾として、『〈知の統合〉は何を解決するのか』と『カワイイ文化とテクノロジーの隠れた関係』が、東京電機大学出版局から刊行される運びとなった。

「第6回横幹連合コンファレンス」活動報告でも述べたように、横幹連合（特定非営利活動法人「横断型基幹科学技術研究団体連合」）とは、およそ40の工学系学会から構成される学会連合で、既に10年以上の歴史を持つ。社会情報学会も、文理融合の理念から、設立当初より横幹連合に参加している。また、社会情報学会副会長も務めさせていただいている遠藤は、2013年から横幹連合副会長を務めており、強い協力関係を結んでいる。

横幹連合が標榜する「横断型基幹科学技術」とは、「論理を規範原理とし、自然科学、人文・社会科学、工学などを横断的に統合することを通して異分野の融合を促し、それにより新しい社会的価値の創出をもたらす基盤学術体系である。[補足説明]たとえば、社会、人間、環境、生命、経営、組織マネジメントなどを扱うために生み出された、統計学、シミュレーション学、最適化手法、情報学、設計学などの学術体系で」あり、「横幹連合は、文理にまたがる43（設立時）の学会が、自然科学とならぶ技術の基礎である「基幹科学」の発展と振興をめざして大同団結したもので、限りなくタテに細分化されつつある科学技術の現実

の姿に対して、「横」の軸の重要性を訴えそれを強化するためのさまざまな活動を行う」ことを目的としている（横幹公式サイト1）より）。

この理念は、社会情報学会の趣旨とも共鳴しあうものである。

この目標をさらにメタレベルで表現するならば、〈知の統合〉ということになるだろう。それは学術的な目標であるにとどまらず、環境問題や自然災害など、現代の諸問題を解決するには、〈知の統合〉が必要不可欠である。このことを広く知っていただくためにこのシリーズは企画された。以下、その内容について簡単にご紹介する。

## 2 第1弾『〈知の統合〉は何を解決するのか』

この横幹〈知の統合〉シリーズの第1弾が、『〈知の統合〉は何を解決するのか—モノとコトのダイナミズム』である。

第1弾ということもあって、この巻では横幹連合をこれまで牽引してきた方々（歴代の会長・副会長）が、横幹連合が目指す〈知の統合〉についての想いを具体的に語っている。

内容は、次の通りである。

第1章 人工物観：吉川弘之（東大名誉教授）

第2章 コトづくりからシステム統合へ：木村英紀（東大名誉教授）

第3章 コトを測る：出口光一郎（東北大名誉教授）

第4章 マネジメントとコトづくりの科学技術：

- 鈴木久敏（筑波大名誉教授）  
 第5章 国際・学際・業際：安岡善文（東大名誉教授）  
 第6章 サービスイノベーション——システム科学技術からのアプローチ：船橋誠壽（北陸先端科学技術大学院大学教授）  
 第7章 日本のモノづくりとそのメタ・システム化——ガラパゴス化を超える新たなパラダイム：\*遠藤薫（学習院大学教授）

- 第3章 絵双紙から漫画・アニメ・ライトノベルまで——日常性の再構築のメディアとしての日本型コンテンツ：\*出口弘（東工大教授）  
 第4章 カワイイと地元経済——ローカル・キャラクターの経済効果：\*田中秀幸（東大教授）  
 第5章 かわいいとインタラクティブ・メディア：武田博直（VR コンサルタント代表）  
 第6章 複製技術と歌う身体——子ども文化から見た近代日本のメディア変容：周東美材（東大特任助教）



図1 第1弾の表紙イメージ

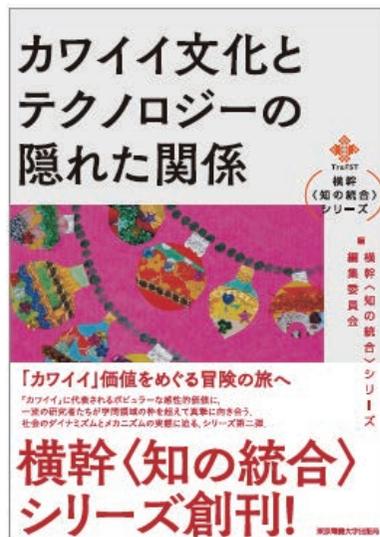


図2 第2弾の表紙イメージ

### 3 第2弾『カワイイ文化とテクノロジーの隠れた関係』

この巻は、2014年の横幹シンポジウムのオーガナイズド・セッションから生まれたものである。文理融合の面目躍如といった内容であり、すでに各方面から反響を得ている。

内容は以下の通りである。（\*を付した登壇者は、社会情報学会会員）。

- 第1章 なぜいま、「カワイイ」が人びとを引きつけるのか？——「カワイイ」美学の歴史的系譜とグローバル世界：\*遠藤薫（学習院大学教授）  
 第2章 「かわいい」の系統的研究——工学からのアプローチ：大倉典子（芝浦工業大学教授）

### 4 今後に向けて

このシリーズはいま創刊されたところである。今後、さまざまなテーマで続々と刊行されていく。現在すでに予定されているだけでも、『コトづくりとヒトづくり(仮)』、『データ・サイエンスで社会を解く(仮)』、『ロボットはトモダチか？(仮)』などが出版待ち中である。社会情報学会のみならずにもさまざまなかたちでご協力いただきたいと考えている。一度手にとっていただければ幸いである。

注1) <http://www.trafst.jp/aims.html>